

旧社会主義国都市における現代若年単身者の居住実態 —プラハを事例に—

Residential Circumstances of Young Single People in Post-socialist city:
The Case of Prague, Czech Republic

H29海人5

派遣先 カレル大学(チェコ共和国・プラハ)

期間 平成29年7月17日～平成29年9月23日(69日間)

申請者 京都大学 大学院文学研究科 地理学専修

修士課程1回生 猪原 章

海外における研究活動状況

研究目的

本研究の目的は、旧社会主義国であるチェコ共和国の首都プラハを対象に、現代の若年単身者の居住地選択の特色を明らかにすることである。居住空間としてのプラハの都市空間構造に関して、住民の社会経済的特性と居住の分布、そして住宅市場動向についての統計分析ならびに、不動産業者への聞き取りによる質的分析を行うことで、若年単身者の居住の特質を解明する。

以上の目的に則して、申請者が現地で行った研究活動の主な目的は、不動産業者への聞き取りを通じて、若年単身者ならびにその他の住民集団の居住地選択の傾向と、プラハの住宅市場の動向に関する情報を入手することである。

海外における研究活動報告

約2ヶ月間の現地調査において、申請者は、主に以下の3種類の活動を行った。①プラハの不動産仲介業者を対象とした、さまざまな住民集団の居住地選択の特性、地区ごとの不動産

物件の特色、そして新規建設が地区に与える影響、の3点に関する情報の収集、②行政担当者を対象とした、プラハの都市計画の現況、利用可能データ、の2点に関する情報の収集、③若年単身者を対象とした、彼らの居住の状況、居住地選択の理由、将来的な移動の有無とその理由、の3点に関する情報の収集、である。

現地滞在期間の前半は、主に①と②の活動に注力した。①については、現地協力者の方のサポートのおかげで、プラハ7区区役所、プラハ市都市計画課、そして都市計画を専門とするNPOから、1人ずつインフォーマントを紹介していただき、プラハにおける都市計画の現況や見通しなどについて、情報を得ることができた。②の現地の若年単身者への聞き取りは、当初の予定では核となる活動であった。しかしながら、夏休み期間だったこともあり、インタビュー協力者の獲得は非常に困難であった。とはいえ、少数ではあるが、彼らの住宅取得行動や選好に関して、基本的な情報を得ることができた。これらの情報を得たうえで、不動産仲介業者へのインタビュー内容の推敲、スケジュールの調整を行った。くわえて、現地協力者の助言により、別の研究者にコンタクトを

取り、議論する機会を設けた。プラハだけでなく、他のヨーロッパ諸国における住民の居住パターンに関する研究動向や、プラハの特色、そして申請者の研究に対して、貴重な助言を得ることができた。

期間の後半は、③の不動産仲介業者へのインタビューを実施した。調査協力が得られた4社を対象とした。結果的に、大規模、中規模、小規模のそれぞれに分類できる業者を、まんべんなく対象とすることができた。彼らへのインタビューから、プラハにおける住民集団ごとに異なる居住パターンを形成する要因について、情報を得ることができた。帰国直前に、研究協力者に対して、現地調査で得られた成果について報告し、投稿予定の英語論文の構成などについて、助言を頂いた。

以上の現地調査から得られた主な成果は、以下の通りである。①プラハにおける都市計画の脆弱さ。社会主義時代の中央指令による計画経済への嫌悪から、現在でも中央集権的なプランニングは十分に機能していない。②若年単身者は、比較的高家賃帯である都心周辺部に住みたがる傾向が強い。安価な文化・社会アメニティの充実、都心への近接性が、彼らの主な選好であった。さらに、彼らは不動産業者を介さず、オーナーが直接広告を出しているウェブサイトの利用、口伝てによる物件の入手、ルームシェアといった、インフォーマルな手段で、比較的低家賃に物件を入手している。③プラハの不動産市場において、賃貸住宅が住民の居住パターンに重要な役割を果たしている。賃貸アパートは、都心とその周辺に凝集している。最高家賃帯である都心部に居住するのは、アフォーダビリティの高い、多国籍企業などに就業する外国人駐在員の単身者で

ある。一方、比較的高家賃帯を形成するその周辺地区には、経済力の低い、キャリア初期のミドルクラス以下の若年単身者が居住している。また、賃貸家族住宅(戸建住宅)は、北西部に集中し、その顧客は外国人駐在員のファミリー世帯である。

帰国後は、本調査から得られた成果を踏まえて、修士論文として結実させている段階にある。さらに、調査受け入れ先のカレル大学社会科学部の紀要である、“AUC Geographica”に投稿する英語論文も執筆中である。

今後、2018年4月からは、民間企業に就職し、新聞記者となる予定である。今回の調査で、外国人と英語でコミュニケーションを取りつつ、自身の研究について、海外の研究者と議論するという経験は、非常に有意義であった。旧社会主義国の都市に関する現代的な研究を実施した研究者は、きわめて少ない。今回得られた経験や成果を元に、新聞記者としてだけではなく、アカデミックな場においても、中東欧の旧社会主義国地域の都市に関する現代的な諸相を発信していきたいと考えている。

謝辞

本研究は、貴財団の助成なしには完成しえなかった。このような貴重な機会を与えていただいたことについて、深く御礼申し上げます。また、現地でも、さまざまな方から貴重な助言や協力、示唆を賜った。重ねて感謝の意を表する。

この派遣の研究成果等を発表した 著書、論文、報告書の書名・講演題目

猪原章. 2018. ポスト社会主義都市における空間構造の変化と居住分化の進行—チェコ共和国プラハを事例に一。(修士論文, 執筆中)